

A close-up photograph of a person's hand holding a small, fluffy ball of white cotton. The background is blurred green foliage.

ネイチャーポジティブに向けた 投融資チェックリスト

コットン

(第1版)

A photograph of cotton bolls on a branch, partially obscured by a large diagonal gold-colored graphic element. The cotton is white and fluffy, surrounded by brown, dried leaves. The background is a soft-focus green and blue.

目次

1 チェックリストの目的	3
2 想定される利用場面	3
3 対象コモディティ・課題とセクター	3
4 チェックリストの適用範囲	4
5 コottonの諸課題	4
6 チェックリストの構成	5
7 指標の難易度について	5
8 チェックリスト【パートB】利用にあたって	6
コットンチェックリスト	7
■ 事前資料 概要	7
■ チェックリスト本体【パートA】社内体制	8
■ チェックリスト本体【パートB】コモディティごとの重点項目	11

著者：WWF ジャパン金融グループ

WWF ジャパン 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビル3F

© 2025 WWF Japan

WWF® および World Wide Fund for Nature® の商標と© 1986 Panda Symbol は世界自然保護基金が所有しています。無断転載を禁ず。

本コンテンツは、一般的な情報提供を目的としており、いかなる投融資に関する助言を構成するものではありません。WWF ジャパンは、本情報に基づいて行われた投融資判断により生じたいかなる損失についても一切の責任を負いません。

表紙写真：©WWF-US/Khaula Jamil, ©Jacqueline Lisboa / WWF-Brazil

©Suzie Hubbard / WWF-UK



① チェックリストの目的

本チェックリストは、銀行やアセットマネージャー（資産運用会社）等の金融機関が、投融資先の事業会社の環境・社会面のリスクの把握と、その対応の適切性についてポイントとなる事項を確認し、エンゲージメントの質を向上させるために作成されたものです。特に、一般的に自然関連の依存・影響が大きい一方で、その確認の難易度が相対的に高い**バリューチェーンにおける企業の取り組み**の進展を目指したものです。

以下を主な目的としています：

- ・ バリューチェーンにおけるネイチャーポジティブを目指した課題に対して、事業会社がどのように取り組んでいるかを構造的に把握する
- ・ 投融資先企業との継続的な対話（エンゲージメント）を促進し、金融機関が求める改善の見える化を行う
- ・ 事業会社によって最低限実施されるべき取り組みを示し、透明性のある取組の進捗を段階的に確認する

② 想定される利用場面

本チェックリストの活用場面は任意ですが、以下のような場面での利用が想定されます。

- ・ 新規投融資時のESGリスク確認（スクリーニング／初回対話）
- ・ 既存投融資先との**定期的なエンゲージメント**（例：年1回のレビュー）
- ・ 各社の進捗管理と比較分析のベース資料として
- ・ 自社のポートフォリオにおける自然資本・サステナビリティ関連の取り組み把握

③ 対象コモディティ・課題とセクター

本チェックリストは、バリューチェーン上でコットンを取り扱う企業や環境課題を対象としています。

対象となる主なセクターは以下の通りです：

- ・ 繊維（アパレル、テキスタイル、寝具）
- ・ 化学
- ・ 商社
- ・ その他製造（家具）
- ・ 小売業



4 チェックリストの適用範囲

本チェックリストは、コットンを原料や製品として「製造・調達・使用・販売」している事業会社に対し、金融機関がバリューチェーン上の、特に原材料調達における環境・社会リスクに関するエンゲージメントを行う際に使用することを想定しています。コットン農園を直接的に経営／管理している事業は本チェックリストによるトレーサビリティの確認の対象とはなりません。自ら生産の起点でトレーサビリティ確認が不要である場合は、より高度で現場に即した評価・エンゲージメント手法が適しています。

コットンの生産も行っている事業会社とのエンゲージメントに本チェックリストを使用する場合は、外部調達する原材料に主眼を置いて使用してください。なお、ほとんどの指標は、企業全体あるいは調達全体に関わる考え方や取り組みを確認するものであり、生産主体の企業であってもチェックリストの全体的な活用は可能です。

5 コットンの諸課題

コットン（綿花）は、衣料品や寝具などの繊維製品に広く使われている重要な農産物です。アパレル、日用品、流通業など多くの業種が間接的に関わるコモディティです。主な生産国はインド、中国、米国、ブラジル、パキスタンなどで、特に発展途上国では小規模農家による生産もよく見られます。

コットンの栽培には多くの自然資本が必要とされるため、さまざまな環境・社会リスクが存在します。特に水資源への依存度が高く、灌漑で大量の淡水が使われることが問題となっています。また、栽培には農薬や殺虫剤が使われることが多く、土壌や水質、生態系への負荷が懸念されるほか、生産者の健康被害の恐れもあります。加えて、児童労働や強制労働といった人権問題も、特にサプライチェーン上で顕在化しています。気候変動の影響により、高温化や干ばつが増え、生産安定性にもリスクが生じています。

こうした課題を踏まえ、事業会社には、コットン調達の持続可能性を高める具体的な対応が求められます。たとえば、GOTS¹、OCS²、BC³などの認証を受けた原料の利用拡大、調達方針における水・農薬使用の管理、人権デューデリジェンスの実施が挙げられます。また、農家との協働による技術支援、トレーサビリティの確保なども重要です。

1. Global Organic Textile Standard の略。オーガニック生産された繊維製品の認証制度の一つ。

2. Organic Content Standard の略。オーガニック生産された繊維製品の認証制度の一つ。

3. Better Cotton の略。持続可能に生産された綿の認証制度の一つ。



6 チェックリストの構成

チェックリストは以下の3部構成です：

■ 事前資料 概要

■ チェックリスト本体【パートA】 社内体制

- ・ 組織体制、ミティゲーションヒエラルキー、人権対応
- ・ 自社拠点での水利用（オフィスでの水利用以外の、ビジネスに関連した水利用がある場合のみ）

■ チェックリスト本体【パートB】 コモディティごとの重点項目

- ・ 当該方針の有無、目標設定、トレーサビリティ、リスク分析等のコモディティ固有テーマ
- ・ 対象とするコモディティにおける複合的な環境課題の初期的な確認

7 指標の難易度について

チェックリスト本体には、複数の指標が用意されています。

これらの指標は、★の数に応じて、一般的な難易度の順に並べられています。

★1つの指標： 既に実施されているべき最低限の内容

★2つの指標： 直近で実施されるべき「必須」の内容

★3つ以上の指標：直ちに実施することができなくても、目指すべき方向性を示した内容

企業の取組状況を把握する際には、どの段階に該当するかを確認することで、実施状況や成熟度をある程度見極めることが可能です。また、次年度に向けた取り組みの方向性を確認することにも使用できます。各指標にチェック欄を設けてありますが、★2つまでは実施／未実施の確認に活用し、事業会社における取組が早期に実施されるよう、金融機関からも働きかけることが期待されます。一方で、★3つ以上の項目については、どのようにして実施していくべきか、改善のための課題の確認など、機械的にチェックしていくばかりでなく、対話のきっかけとなるような使い方が期待されます。

なお、ミティゲーションヒエラルキーの各指標（パートA ステップ2）については、「回避・削減」→「基本的な取り組み」→「現場の改善支援」→「再生・回復（ネイチャーポジティブの実践）」という段階的な構成となっています。このため、より難易度の高い指標（例：★★★）に該当する取り組みがあっても、前段階である★（回避・削減が優先であることの認識）や★★（方針、目標、トレーサビリティの基本的な取り組み）がまだできていない場合には、当該チェック項目（この場合なら★★★）にはチェックを入れないで下さい。ミティゲーションヒエラルキーについては順を追って進んでいることが重要であり、全体として一貫性と実効性のある取り組みであることが求められます。



8 チェックリスト【パートB】利用にあたって

チェックリスト【パートB】は、各セクターにおけるバリューチェーン上の環境・社会的リスクと、それに対する企業の取り組み状況を確認するための対話ツールです。**本チェックリストの各ステップは、あらかじめ定められた順序に従う必要はなく、対象企業の状況や対話の流れに応じて柔軟に使用してください。**各項目（例：調達方針、トレーサビリティなど）は、セクターの特性や投融資先の状況に応じて、**自由な順序で確認・対話を進めることも可能です。**

本チェックリストは、画一的な評価を目的とするものではなく、バリューチェーンにおけるリスクと対応状況を包括的に理解するための対話のツールです。**各ステップはあくまで目安であり、対話の中で適宜変更し、各金融機関の既存の確認項目と統合するなどして利用してください。**

例えば、トレーサビリティの確認度合いについて、以下のような細分化を行うことなども可能です。

- A.** 特定の原材料について、**全体の20%未満**のトレーサビリティが把握されている
- B.** 複数の原材料について、**概ね20～50%程度**のトレーサビリティが把握されている
- C.** 主要原材料について、**50～80%程度**のトレーサビリティが確保されている
- D.** すべての対象原材料について、**80%以上**のトレーサビリティが確保されており、原産地までの追跡が可能である

また、事業会社のベストプラクティスの進展や、新たなモニタリングツールが利用可能になるなどの進捗によって、将来的にはより高度な質問を追加することも可能です。



©WWF-US/Khula Jamil



コットンチェックリスト

事前資料

概要

事前確認事項	コットンの留意事項
1. 課題の把握 (このコモディティ・テーマで)WWFジャパンがサプライチェーン・バリューチェーンで確認すべきと考える問題・課題	乾燥地等の水リスクの高い地域での水負荷の高い栽培、汚染(水・土壌)、農園・工場での人権問題などの社会的問題、土地の転換
2. 利用できる認証制度	Better Cotton (BC相当の制度を含む)、GOTS、OCS、Fairtrade ⁴ 、AWS ⁵
3. 利用できるツール	WRF ⁶ 、Aqueduct ⁷ 、BRF ⁸ 、ZDHC ⁹ 、Higg Index ¹⁰
4. 参加が推奨される枠組み等	Textile Exchange ¹¹
5. 事業会社の取り組みで良く見られる誤解、その他金融機関向け注記	● サプライチェーンが複雑で、トレーサビリティの確保が困難な背景は、小ロット、多品番での注文が多く、流通事業者等が間に入って複雑なサプライチェーンを構築しながら生産していることからブランド・小売りが生産背景を把握していないケースが多い。 ● GOTSやOCS、Fairtrade等の制度を用いれば、トレーサビリティの確認が出来るため、そうしたものを活用しながら、商社と協力して商流の把握から進めるべき。また、Better Cotton (BC) は原綿生産量ベースで世界の生産の2割程度を占めており、現実的な調達切り替えで利用されている制度。トレーサビリティの仕組みは2024年になって導入されたばかりだが、商流の把握を同時並行で進めつつ、BCクレジットの購入を先行的に進めて現地での環境・社会課題改善に取り組むことも重要。

本チェックリストを効果的に活用するには、上記概要の記載内容に加え、指標毎に「留意事項」が記載されている場合は、そのポイントを事前に理解しておくことが重要です。例えば、金融機関にとっては、企業の掲げる方針と実際の目標が整合的かどうか、バリューチェーンのどの部分にリスクが集中しているか、といった判断が難しい場面もあります。そうした際の**注意点やヒントも「留意事項」に含まれていますので、チェックリストを使う前に必ず内容を確認してください。**

4. 国際Fairtrade基準に則って経済・社会・環境に配慮して生産された産品を認証する仕組み。コットンも認証の対象となっている。

5. Alliance for Water Stewardshipの略。水リスクへの対応を含めた持続可能な水利用管理を認証する国際的な仕組み。

6. Water Risk Filterの略。WWFがドイツの金融機関DEGとともに開発した、水環境にかかわるリスクを調査、評価、および対応できるようにするオンラインツール。

7. World Resources Instituteが開発した水リスクを評価するオンラインツール。

8. Biodiversity Risk Filterの略。生物多様性関連リスクのスクリーニングと優先順位付けを行うための、無料ウェブベースツール。

9. Zero Discharge of Hazardous Chemicalsの略。繊維・アパレル・フットウェア産業から排出される有害物質をゼロにする団体・プログラム。

10. Cascale (旧 Sustainable Apparel Coalition) が開発した繊維・アパレル・フットウェア産業のサステナビリティに関連する指標。

11. アメリカに本部を置く、環境に配慮した繊維素材の普及を進める国際NGO。前述のOCS等の国際認証のスキームホルダー。

ステップ	指標 番号	難易度	確認項目	コモディティ、イシュー毎の 留意事項	金融機関 チェック欄
1 社内体制	A-1-1	★	従業員へサステナビリティや 持続可能な調達・環境保全 の研修機会を提供している。		☐
	A-1-2	★	自然関連の責任を経営レベル の職位または委員会に割り当 てている。		☐
	A-1-3	★	定期的なTNFD開示をしてい る／TNFD(アーリー) アダ プターである。		☐
	A-1-4	★★	環境・人権NGOなどを含む、 外部有識者との定期的な意 見交換の場を設けている。外 部有識者との意見交換が原 材料調達やデューデリジェン ス等を担当する部署に届き、 実際の運用に反映される体 制がある。		☐
2 ミティゲーション ヒエラルキー	A-2-1	★	バリューチェーンを含むネガ ティブインパクトの低減が再 生や回復に優先することを対 外的に表明している。		☐
	A-2-2	★★	B-2-2、B-3-2、B-4-2の全 てが実施されている。		☐ ¹²
	A-2-3	★★★	生産者やサプライヤーへの改 善支援を行っている。	- 原材料生産・製造・加工の 工程それぞれに支援ポイン トがある。 - 水課題を中心とした自然環 境や、社会への配慮を行う 改善支援を行っているかが ポイント。 - 農園において Better Cotton 生産、オーガニックコット ン生産等の環境・社会に配 慮した栽培の支援を行って いる。	☐ ¹²

12. これらの指標は、より相対的に難易度の低い指標が全て実施された後にチェックすることで、ミティゲーションヒエラルキーの順序に留意する
(例；★★★に該当する取り組みがあっても、★と★★の実施が確認できた後にチェックする)。

ステップ	指標 番号	難易度	確認項目	コモディティ、イシュー毎の 留意事項	金融機関 チェック欄
2 ミティゲーション ヒエラルキー	A-2-4	★★★★	該当するコモディティ／イシューについて、回避、削減を超えたNPの取り組みを実施している。	原材料調達を行っている流域において、湿地再生、水源地の保全、ステークホルダーと連携した持続可能な流域管理に関するガバナンスへの働きかけ等の取り組みが該当する。	☐ ¹²
	A-3-1	★	ビジネスと人権に関する指導原則(UNGP)、ILO条約やOECD多国籍企業ガイドライン等の国際規範を把握し、人権方針を策定している。		☐
3 人権対応	A-3-2	★★	自社による是正・救済が必要な場合、対応を実施し、その概要や件数を開示している。		☐
	A-3-3	★★★★	IPLCや影響を受けるステークホルダーを含む、バリューチェーン全体を対象としたグリーンバンスメカニズムを構築している。		☐
	A-3-4	★★★★	バリューチェーン全体を対象とした人権デューデリジェンス実施体制を構築している。	サプライチェーン全体で人権関連の課題が指摘される産業。児童労働・強制労働・過重労働・健康被害等、多様な課題が指摘され、農園でも工場でも課題が大きい。	☐
	A-3-5	★★★★	バリューチェーンでは是正・救済が必要な場合、関連するサプライヤーや二次サプライヤーに対する対応を実施している。		☐

自社拠点での水利用				
ステップ	指標 番号	難易度	確認項目	金融機関 チェック欄
4 自社拠点での 水利用	A-4-0		自社拠点での水利用（オフィスを除く、農業や工業での利用）がある。 ※「有」の場合、A-4-1からA-4-7を確認／「無」の場合、B-1-1へ	有 ☐ 無 ☐
	A-4-1	★	自社拠点において Water Risk Filter、Aqueduct等のリスク把握のためのツールを用いた水リスク分析が行われている。	☐
	A-4-2	★	- 水量（水の効率的利用、渇水／水ストレス）についての分析が行われている。 - 自社拠点での水の効率的な利用や、汚染の防除の取り組みが実施されている。	☐
	A-4-3	★★	水ストレス（渇水）以外の指標（汚染・洪水・評判・ガバナンス等）についても分析されている。	☐
	A-4-4	★★	将来予測（気候変動シナリオ分析を含む）に基づいた分析がされている。	☐
	A-4-5	★★★	WASH（水と衛生）や、洪水等の水が起因となる自然災害への対応がされている。	☐
	A-4-6	★★★★	水ガバナンスへの働きかけを行っている（例えば、産官学+金融といった多様なステークホルダーと地下水保全の取り組みを行っている等）。	☐
	A-4-7	★★★★★	水関連の目標がローカルの状況を捉えたもの（Contextual Targets）となっている（例えば、自社のサプライチェーンの水リスク分析を元に、リスクの高さに応じた目標設定を、水量・水質・洪水・WASH（水と衛生）、水ガバナンスの5つのリスクカテゴリーで設定している）。	☐

ステップ	指標 番号	難易度	確認項目	コモディティ、イシュー毎の 留意事項	金融機関 チェック欄
1 課題認識	B-1-1	★	概要1の課題認識がある。		☐
2 方針	B-2-1	★	- 当該コモディティについて、基本的な内容を含む調達等の方針がある；または 「生物多様性」「サステナビリティ」「ネイチャーポジティブ」などの方針の中で、当該の問題、課題、イシューに言及している。		☐
	B-2-2	★★	方針に必要な要素が網羅され、内容が国際標準に沿っている。	方針に必要な要素は以下： - Textile ExchangeのPreferred Fibers and Materials¹³等を参照したサステナブル・コットンの定義 - コットン生産時における水使用、汚染（有害化学物質利用）、生物多様性への負荷等の水リスクの低減 - コットン栽培地での人権への配慮。トレーサビリティの確保	☐
	B-2-3	★★★★	B-2-2に相当する方針の適用範囲が包括的である。	調達するコットン全てが方針の対象となっている。	☐
3 方針に対応した目標設定と開示	B-3-1	★	方針に基づく基本的な数値目標と達成年がある。		☐

13. Textile Exchangeが公開している企業の繊維素材に関する持続可能な調達を手助けするためのガイダンス。

ステップ	指標 番号	難易度	確認項目	コモディティ、イシュー毎の 留意事項	金融機関 チェック欄
3 方針に対応した 目標設定と開示	B-3-2	★★	B-2-2の方針に対応し、内容的に一致している目標が設定されている。	サステナブル・コットンの調達と銘打って、アメリカ産コットン・オーストラリア産コットンを調達している企業事例が散見される。これらの地域においても水リスクは現在・将来にわたって高いもしくは高まっていくと予測される地域が多く、従来型の生産の調達を行っている場合、ただちにサステナブル・コットンの調達と位置付けるのは課題がある。どういった制度・基準でもってサステナブルとみなしているのかを開示する必要がある（参考としてUSCTP ¹⁴ やmyBMP ¹⁵ 等、Textile ExchangeのSustainable Cotton Challenge 2025 ¹⁶ で推奨されている制度も存在している。）。	☐
	B-3-3	★★★★	達成年の手前の中間目標がある。		☐
	B-3-4	★★★★★	方針「B-2-3」に対応する目標達成を目指している。	2030年までに100%切り替えの目標となっている。	☐
	B-3-5	★★★★★	該当する場合、国際基準に準拠した詳細目標を策定している。	（該当する国際基準は今のところ存在しない。）	☐
4 トレーサビリティ	B-4-1	★	質問票を送る等、一次サプライヤーヒアリングを開始している。		☐
	B-4-2	★★	意味のあるデューデリジェンスが実施可能なレベルでトレーサビリティを把握している（金額／ボリューム等で70%以上程度）。	利用している原綿の生産国が、客観的・検証可能な方法に基づいて分かっていることが必要。	☐
	B-4-3	★★★★★	トレーサビリティをGeo Locationレベルで把握している（高リスクな地域をカバーし、金額／ボリューム等で70%以上程度）。	原綿生産地が農園レベルで把握できている。	☐

14. U.S. Cotton Trust Protocolの略。米国産コットンに関して、環境配慮とトレーサビリティを高めるための制度。

15. my Best Management Practiceの略。オーストラリアにおけるコットンのサステナブル生産に関する制度で、Better Cottonと同等の基準を要する。

16. Textile Exchangeによる、コットン調達を2025年までにサステナブルなものに切り替える企業コミットメントを募る活動。

ステップ	指標 番号	難易度	確認項目	コモディティ、イシュー毎の 留意事項	金融機関 チェック欄
5 デュー デリジェンス	B-5-1	★	概要1の課題について、基本的なリスク分析を開始している。	Water Risk FilterやBiodiversity Risk Filter、Aqueduct等のグローバルなツールを利用して、水や生物多様性に関するリスク把握を行っている。	☐
	B-5-2	★★	概要2で挙げた信頼できる認証制度をデューデリジェンスに活用している。	Better Cottonでは、物理的なトレーサビリティ確保のための仕組みを開始はしているが、現時点ではマス・バランスモデルによるクレジット売買でのバーチャルな調達切り替えが中心となっている。上述の通り、サプライチェーンの複雑性や、生産ボリュームの観点からBC調達自体は推奨するが、トレーサビリティの確保上は課題があることを認識し、別途トレーサビリティを高める取り組みが必要。	☐
	B-5-3	★★★★	現地調査などテーマ毎の詳細なリスク評価や法的要件を超える先進的デューデリジェンスを実施している。		☐
6 クロス カッティング	B-6-1	★★★★	スコープ1～3のバリューチェーン全体で、GHG排出量(エネルギー起源GHG及び土地・生物由来GHG(土地利用変化からの排出を含む))を測定している。	対象に該当する場合は、SBTi FLAG目標を設定し認定されることが望ましい。	☐
	B-6-2	★★★★	トレーサビリティに基づき原産地での水リスク(流域、排水システム、灌漑等)を特定・評価している。	- コットン農園の水リスクについて検討を開始する。 - 染色工場等の加工工程における水使用・排水に関する水リスクの確認が望ましい。	☐
	B-6-3	★★★★	原産地において概要1の課題および水リスク以外の自然関連リスクを特定している。	特定している自然関連リスクを明示する。	☐



©WWF-US/Khula Jamil



人と野生生物が共に自然の恵みを
受け続けられる世界を目指して、
活動しています。

together possible™ wwf.or.jp

© 1986 Panda symbol WWF – World Wide Fund For Nature (Formerly World Wildlife Fund)
® "WWF" is a WWF Registered Trademark. WWF, Rue Mauverney 28,
1196 Gland, Switzerland – Tel. +41 22 364 9111; Fax. +41 22 364 0332.

詳細やお問い合わせについては、WWFジャパンのウェブサイト www.wwf.or.jpをご覧ください